

“かわら美術館 × ざっくばらんなカフェ”

いま求められている文化施設、居場所としての図書館

in 高浜市やきものの里かわら美術館



library

10月28日（土）午後2時～

菊池隆（鎌倉市中央図書館館長）

×

加藤佐弥香（高浜市立図書館司書）

美術館は美術作品を観るところ、

図書館は本を読むところ。

文化施設にはそれぞれが担っている機能がある一方で、

それ以外に社会の中で果たすことができる大事な役割もあります。

文化施設の可能性について一緒に考えます。

## いま求められている文化施設、居場所としての図書館

知と情報の発信拠点として、私たちの文化的な生活を支える、図書館。  
 過去 20 年、地方を中心に施設数は増え続けています。また、開館時間の延長やカフェ併設など、これまでにない斬新なサービスを提供するところもあり、図書館は、本（資料）を貸し出すだけでなく、地域における新たな役割を模索しています。  
 今回、鎌倉市中央図書館からゲストを招き、高浜市立図書館の職員とともに、“共感が集まる”や“市民に近い”というキーワードから、これからの図書館－文化施設の可能性を考えます。ざっくばらんなカフェにぜひご参加ください。

### 鎌倉市中央図書館 共感を集めたツイート

『もうすぐ二学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。マンガもライトノベルもあるよ。一日いても誰も何も言わないよ。9月から学校へ行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館も思い出してね。』 2015年8月26日

居場所を提供しようとする図書館に、共感だけではなく、非難も集まりました。全職員で考え、館長が下した決断とは。

講師：菊池隆（鎌倉市中央図書館館長）

### “誰からも近い”高浜市立図書館

子育て世代が増えていることから、子ども対象、親子向けイベントを充実させている。  
 また、特集コーナーを4分類『一般・話題・食育・児童』で紹介し、幅広い対象に本が持つ魅力を届ける工夫をしている。年に1度のとしょかんフェスティバルでは地域交流に貢献する。

高浜市の図書館の運営が行政から民間に変わる中で、一貫して図書館職員として働く。移転や複合が検討されている今だからこそ、図書館の在り方を、市民と考える。  
 講師：加藤佐弥香（高浜市立図書館チーフ）

日時：10月28日（日）午後2時から（要申込）

場所：かわら美術館 3階モノコトギャラリー 定員：50名

お申込みは、お電話・FAX・メールにてお申込みください。メールの場合は、イベント名、参加人数、代表者名、電話番号を記載ください



高浜市やきものの里  
**かわら美術館**

〒444-1325

高浜市青木町九丁目6番地18

TEL 0566-52-3366

FAX 0566-52-8100

Mail [info@takahama-kawara-museum.com](mailto:info@takahama-kawara-museum.com)

休館日/月曜日・10月10日（火）（但し、10月9日（火）は開館）開館時間/10:00~17:00



#### 電車でお越しの方

◆名鉄三河線「高浜港」駅下車徒歩10分  
 （名鉄名古屋本線「知立」駅または  
 JR東海道本線「刈谷」駅で  
 名鉄三河線碧南方面に乗り換え）

#### 車でお越しの方

名古屋方面から  
 ◆知多半島道路阿久比インターから約15分  
 ◆国道23号（知立バイパス）  
 西中インターから約20分  
 豊橋方面から  
 ◆国道23号（知立バイパス）  
 高棚福釜インターから約15分

### かわら美術館 × ざっくばらんなカフェ 参加申込書

氏名（ふりがな）		所属	
電話番号		FAX番号	
通信欄（複数名でご参加される場合は、人数と参加者氏名をこちらに記載ください）			